

●junii2:textversion -> dcterms:accessRights & openaire:versionTypeの移行 (九州大学学術情報リポジトリQIRの場合)

○前提の前提

1つの要素を2つの要素に分解するのだからどうしたって無理がある

○前提 (旧QIRの運用)

QIRでは公開している一次情報の版にもとづきtextversionを入力している。一次情報が全て非公開であれば、自動的にtextversionはnone。

一次情報が要旨・目次等のメタデータ相当だけの場合、textversionはnoneになっている。

textversionは必ず入力しているのでnullは存在しない。

ただし、textversionは入力ミスの可能性が皆無ではない。。

○移行のプロセス (2段階)

旧システム (理論的な組み合わせ)		
textversion	一次情報*の状態	備考
publisher	公開	
publisher	エンバーク	存在しないはず
publisher	非公開	存在しないはず
publisher	なし	存在しないはず
author	公開	
author	エンバーク	存在しないはず
author	非公開	存在しないはず
author	なし	存在しないはず
ETD	公開	
ETD	エンバーク	存在しないはず
ETD	非公開	存在しないはず
ETD	なし	存在しないはず
noneまたはnull	公開	存在しないはず
noneまたはnull	エンバーク	
noneまたはnull	非公開	
noneまたはnull	なし	

→

新システム (データ移行直後)		
accessRights	versionType	一次情報の状態
open access	published	公開
open access	published	エンバーク
open access	published	非公開
open access	published	なし
open access	accepted	公開
open access	accepted	エンバーク
open access	accepted	非公開
open access	accepted	なし
open access	published	公開
open access	published	エンバーク
open access	published	非公開
open access	published	なし
metadata only access	なし	公開
(学位論文) or restricted access (その他)**	なし	エンバーク
	なし	非公開
metadata only access	なし	なし

→

あるべき姿		対応方法
accessRights	versionType	
open access	published	/
embargoed access	published	放置
restricted access	published	放置
metadata only access	なし	放置
open access	accepted	/
embargoed access	accepted	放置
restricted access	accepted	放置
metadata only access	なし	放置
open access	published	/
embargoed access	published	放置
restricted access	published	放置
metadata only access	なし	放置
open access	published or accepted	放置
embargoed access	published or accepted	目視確認
restricted access	published or accepted	目視確認
metadata only access	なし	/

合計720件ほど

★青字部分が問題

\*注意

エンバーク＝一次情報が非公開、かつ、未来の公開予定日が入力

非公開＝一次情報が非公開、かつ、未来の公開予定日は入力されてない

なし＝一次情報が存在しない (または要旨・目次等のみ)

\*\*理由

embargoed accessにすべきものはエンバーク期間終了時に気づくのでとりあえず放置

学位論文＝2013年度以降は本文非公開の場合は本文ファイルをE-Catsに登録してないのでrestricted accessにする必要はない。

その他＝一次情報がある場合は本文相当のファイルが登録されているはず。noneだったということはきっとそれは非公開。

○まとめ

理想的なパターン分けに応じて移行できればベストだったが、現実的にはそのパターン分けが困難だった

そのため、まずはおおまかに移行して、次に細かいところは目視チェックを行い、残りは気づいたときに直す、という精神で